

岡崎市と西尾市の無形民族文化財

つつみどおりてなが

おたおうぎまつり

堤通手永 御田扇祭り

令和5年7月16日（日） 上三ツ木町

堤通御田扇祭り保存会

松原秀敏（六ツ美中部学区総代会長）



御田扇祭りについて（岡崎市HPより一部抜粋）

【名称】 こうたいじんぐうおたおうぎまつり

正式には、「**皇大神宮御田扇祭**」

？御田扇祭りの由来は？、？なぜ扇なの？

→田扇(たおうぎ)伊勢神宮神の神田のある三重県伊勢市楠部町で5月17日に行われる御田植祭に用いる扇。これで田をあおぐ動作をすれば害虫にわずらわされることがなく、(また産婦が向かい合っている柱にこれをかけて安産のまじないとする。) *日本国語大辞典より

【祭典】

7月の日曜日 [令和5年7月16日(日)]

御田扇祭りについて（岡崎市HPより）

【歴史】

- ・江戸時代、**岡崎藩の農民支配制度である手永制度**のもと藩領である手永内で行われた祭礼。
- ・史料によれば**宝暦6(1756)年**にはその存在が認められます。**江戸中期**。
- ・明和6(1769)年以降の後本多家藩主時代には**6つの手永ごと**に行われていた。
- ・現在、渡御行列を継承するのは、**堤通手永**と**山方手永**のみです。

御田扇祭りについて

(岡崎市HPより)

【堤通手永御田扇祭り保存会】 ※全20町

- ・ **岡崎市**：中之郷町、上青野町、高橋町、上合歓木町、下合歓木町、安藤町、福桶町、**下三ツ木町**、**上三ツ木町**、下青野町、在家町、土井町、牧御堂町、法性寺町、宮地町、赤渋町 **【16町】**

(※ただし、上合歓木町、下合歓木町は合歓木町内にある通称町であり、行政上の町ではありません。)

- ・ **西尾市**：高落町、新村町、西浅井町、東浅井町 **【4町】**

※ 堤通手永は、**緑**の番号 →
山方手永は、**朱色**の番号



堤通手永御田扇祭りについて（岡崎市HPより）

とぎょうれつ

【渡御行列】

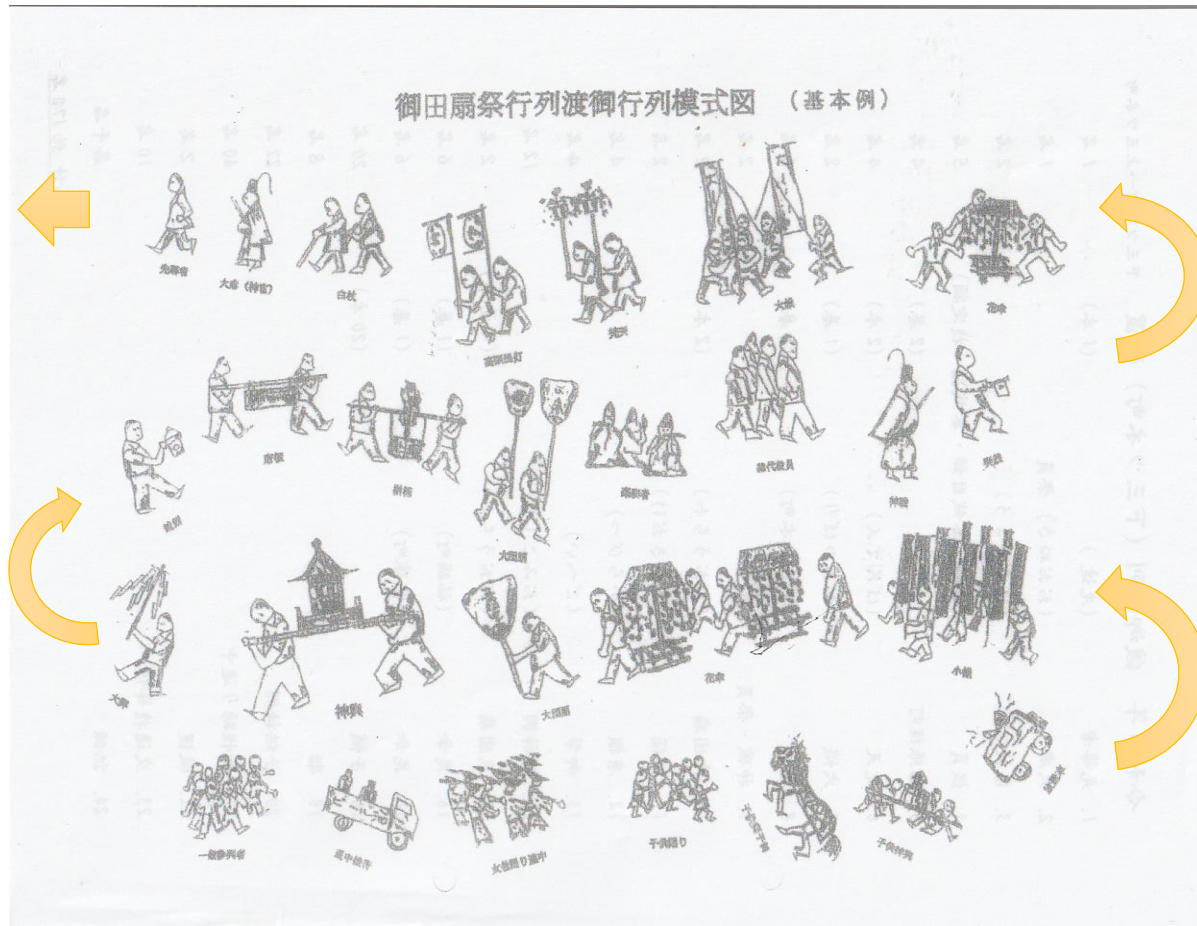
- ・神輿(みこし)を中心に、大団扇、花笠等の造り物で構成。
- ・一年ごとに手永内のマチからマチへと巡回。
- ・五穀豊穰、町内安全、天下和順(てんげわじゅん)などを願う。
- ・後本多家時代の順村を基本に、手永内20箇所で開催が行われている。
- ・巡行は1年に1箇所、隣のマチへ移動してきます。
- ・今年、令和5年の堤通手永は、**下三ツ木町から上三ツ木町へ**巡行されました。



堤通手永御田扇祭りについて

とぎょうれつもしきず

【渡御行列模式図】



【渡御行列配置】

令和5年 渡御行列 (下三ツ木町) 配置 下三ツ木町→上三ツ木町

1. 先導者	(先達)	(1本)	1名
2. 大麻	(おおぬさ) 祭員		1名
3. 白杖	(はくじょう)		2名
4. 役員	(目録・賽銭目録・賽銭箱・指定額)		5名
5. 高張提灯		(2基)	4名
6. 梵天	(ぼんでん)	(2本)	4名
7. 大幟	(おおのぼり)	(1基)	2名
8. 花傘	(下三ツ木町)	(1基)	6名
9. 神職・祭員			2名
10. 大団扇	(おおうちわ)	(2本)	2名
11. 神桶	(さかきおけ)		2名
12. 唐櫃	(からびつ)		4名
13. 御幣	(ごへい)		4名
14. 御神輿	(おみこし)		12名
15. 大団扇	(おおうちわ)	(小2本)	2名
16. 花傘	(福桶町)	(1基)	6名
17. 花傘	(安藤町)	(1基)	6名
18. 子幟		(20本)	20名
19. 船			8名
20. 子供神輿			22名
21. 女性踊り連中			40名
22. 救護			2名
23. 交通指導係			10名
24. 記録			若干名

合計 約170名

合計 約170名

堤通手永御田扇祭りについて (文化財指定調書より)



おみこし
【御神輿】



みこしだい
【御神輿台】



さかきおけ・さかきだい
【御榊桶・榊台】



ぼんてん たかばりちょうちん
【梵天 1 対・高張提灯 1 対】



おおのぼり
【大幟 1 本】



はながさ
【花傘 3 基】



このぼり
【小幟 20 本】

※各町の小幟



おおうちわ
【大団扇 大小 1 対】

堤通手永御田扇祭りについて (文化財指定調書より)



【御田扇神宮品目録】



【御田扇御神酒料積立簿】 ①



【御田扇御神酒料積立簿】 ②



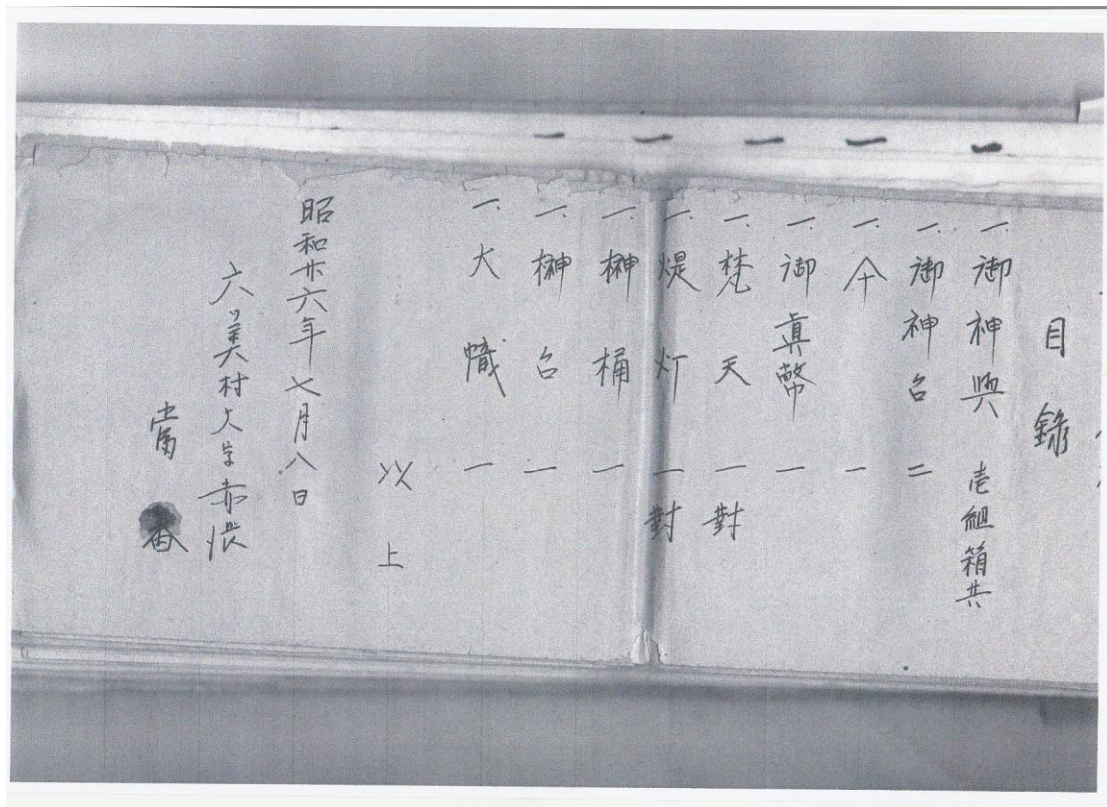
【賽銭箱】

堤通手永御田扇祭りについて

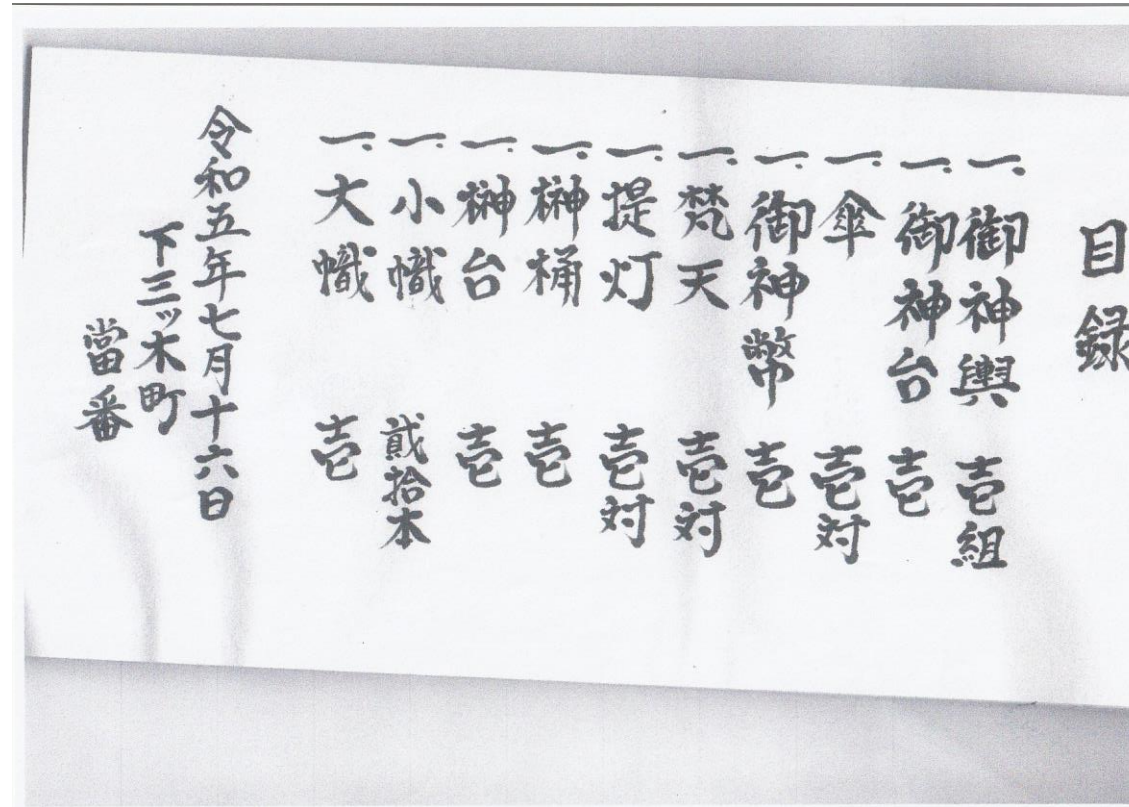


もくろく

【目録】



昭和26年の目録



令和5年の目録

今年 (R5)の堤通手永御田扇祭り

令和5年案内チラシ

つつみどおりてなが おたおうぎまつり

堤通手永 御田扇祭り

令和5年7月16日(日) 上三ツ木町



御田扇祭り概要

御田扇祭りは正式には、「皇大神宮御田扇祭」といい、江戸時代、岡崎藩の農民支配制度である手永制度のもと藩領である手永内で行われた祭礼です。史料によれば宝暦6(1756)年にはその存在が認められます。明和6(1769)年以降の後本多家藩主時代には6つの手永ごとに行われていましたが、現在、渡御行列を継承するのは、堤通手永と山方手永のみです。渡御行列は神輿を中心に、大団扇、花傘等の造り物で構成されます。1年毎に手永内のマチからマチへと巡行し、五穀豊穡・町内安全・天下和順などを願います。今年下三ツ木町から上三ツ木町へ巡行されます。

平成27年に岡崎市と西尾市の無形民俗文化財に指定されました。

上三ツ木町実行委員長からのご挨拶

今年、20年に1度の扇さんをお迎えます。地域の伝統行事として、町民全体でお迎えることを喜ばしく思います。今回は、実行委員長として関わることとなり、感銘深いものがあります。伝統を守り、お迎えて1年後お送りします。子供たちを含め町民には良い経験だと思います。そして、次世代への伝統を末永く継承することが大切なことだと思います。伝統ある扇さんを1年間お守りし、次の町にお送りできることを喜ばしく思います。

祭りの詳細はこちら
(岡崎市のホームページ)



御田扇祭り 当日の行事日程

時間	行事内容	
7:00	実施連絡祝砲	
9:00	上箱授受	(下三ツ木町 三社神社)
13:00	奉送神事開始	(下三ツ木町 三社神社)
13:30	神前奉納踊り	(下三ツ木町 三社神社)
14:00	渡御行列出発 約170名	(下三ツ木町 三社神社)
14:30	休憩所着 (下三ツ木町内)	(下三ツ木町東側ゴミステーション)
14:50	休憩所出発	
15:10	受け渡し式 両町地境にて	
15:25	受け渡し式終了後、渡御行列出発	
15:30	休憩所着 (上三ツ木町町内)	(上三ツ木町北島地内)
15:50	休憩所出発	
16:00	渡御行列到着	(上三ツ木町 神明社)
16:05	神前奉納踊り	(上三ツ木町 神明社)
16:20	奉迎神事開始	(上三ツ木町 神明社)
16:50	直会開始	(上三ツ木町 公民館)
17:45	終了	
18:00	帰町・境内清掃・後片付け	
18:30	解散	

※当日雨天の場合は、神事のみ催行

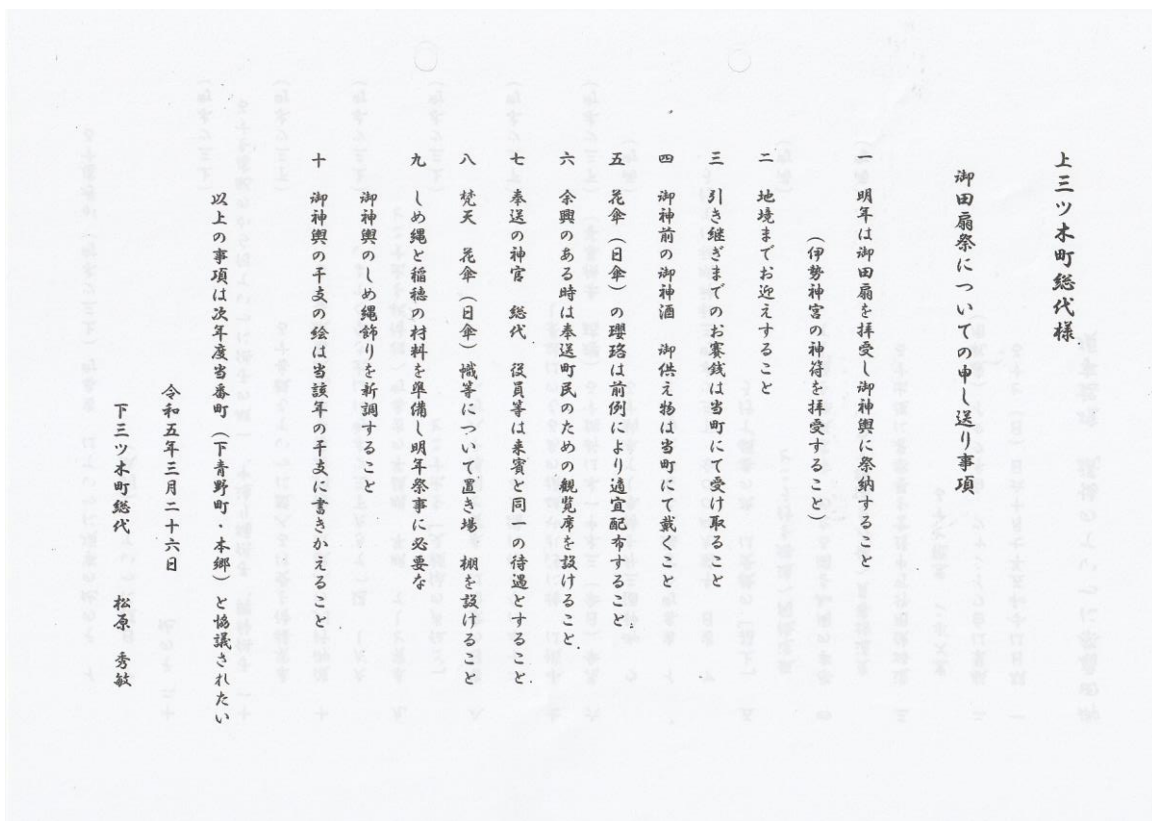
渡御行列ルート



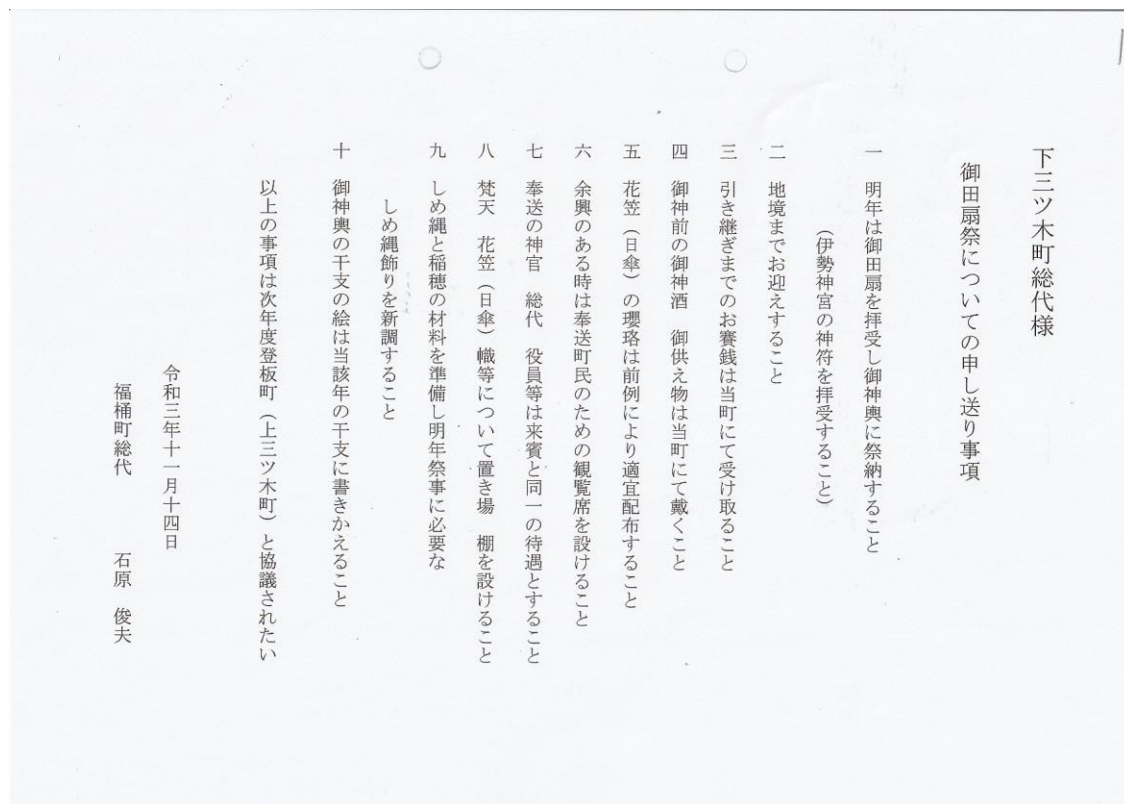
今年 (R5)の堤通手永御田扇祭り

【申し送り状】

<令和5年の申し送り状>



<令和4年の申し送り状>



今年 (R5) の堤通手永御田扇祭り

【協議 確認事項】

< 令和5年協議 確認事項 >

- 御田扇祭りについての協議 確認事項
- 一期日は令和五年七月十六日(日)とする
 - 服装は白ワイシャツ 白ネクタイ(慶祝用)
黒ズボン 黒靴とする
 - 道路使用許可申請書と警察署に提出する
交通誘導員へ協力を依頼する
祭事の周知を図るため 市広報採を通じて
報道機関へ連絡を行うこと (両町)
 - 「上箱」の授受は 次の要領で行う
ア 当日 午前九時〇〇分 下三ツ本町三社神明社にて行う
イ 当番町の宮総代二名が出向くこと
ウ 御神酒三升を持参して奉納する (両町)
 - 花傘(日傘) 三本中一本は新調する(理路 赤黄幕等) (下三ツ本町)
小織は 特に汚れや破損のあるものは破棄し
二十本になる様に備える (下三ツ本町)
 - 当日の案内は 来賓と関係十八町へ
「伝声の依頼文」を出すこと (上三ツ本町)
 - 来賓として 明年 明後年の当番町へ招待状を出すこと
ただし 送ってきた下三ツ本町には出さなくてよい (上三ツ本町)
 - 渡御行列の人数は 行列名簿を作成次第報告する
来賓接待を受ける人数についても報告する (下三ツ本町)
 - 子供神輿、子供踊り連中、一般の子供について何らかの配慮をする
(上三ツ本町)
 - 十二 その他
ア 日程について (別紙)
イ その他の事項については当番町(下三ツ本町)が考慮する

< 令和4年協議 確認事項 >

- 御田扇祭りについての協議 確認事項
- 一期日は令和四年七月一七日(日)とする
 - 服装は白ワイシャツ 白ネクタイ(慶祝用)
黒ズボン 黒靴とする
 - 道路使用許可申請書を警察署に提出する
交通指導員へ協力依頼する (両町)
 - 祭事の周知を図るため市広報課を通じて
報道機関へ連絡を行うこと (両町)
 - 「上箱」の授受は次の要領で行う
ア 当日午前八時〇〇分 福桶町三宮神社にて行う
イ 当番町の宮総代二名が出向くこと
ウ 御神酒三升を持参して奉納する (福桶町)
 - 花笠(日傘) 三本中一本は新調する(理路 赤黄幕等) (福桶町)
 - 小織は特に汚れや破損のあるものは破棄し
二十本になる様揃える (福桶町)
 - 当日の案内は来賓と関係十八町へ
「伝声の依頼文」を出すこと (下三ツ本町)
 - 来賓として 明年 明年後の当番町、招待状を出すこと
但し、送ってきた福桶町には出さなくてよい (下三ツ本町)
 - 渡御行列の人数は行列名簿を作成次第報告する
来賓接待を受ける人数についても同様とする (福桶町)
 - 一般の子供について何らかの配慮をする (下三ツ本町)
 - 十二 その他
ア 日程について (別紙)
イ その他の事項については当番町(下三ツ本町)が考慮する

今年の堤通手永御田扇祭りを やってみて①

◆ 20年前と今年の違い

- そもそも **20年前のお祭りを知っている方が少ない。**
- 20年前とお祭り（やること）は同じだが、**準備する人は全く変わっている。**
- お婆さんの言葉「**御田扇祭りを4回経験すると長生きする**」 ※7, 27, 47, 67歳の4回経験
- お祭りには**170名以上の方の参加が必要。**今年は**約200名。**
- **全町民の参加協力**が無ければ開催できない。**家族総出。**
- コロナ特有の事情もあった。



今年の堤通手永御田扇祭りをやってみて②

◆町民のつながりが強くなった

- 小幟は、自町のものには開催時に新調する（ならわし）。
- 花傘は、毎年3基の内1基を創作（新調）。
 - 花傘飾りは布で野菜や果物を作成。
 - 女性部の方が作成を担当。
 - 年々飾る数が増えている。今年は約1,200個。
 - 3月から作成開始。
- 女性部の集まりに御田扇のビデオを流してお祭りへの参加意識を高め、つながりを強くしていった。
- 花傘飾りはお守り（祈祷）。お祭りへの参加意識を高めるために、前年度に抽選会を開いて花傘飾りを配布した。
- 参加意識が高まり踊りもできた。



はながさ
【花傘】

今年の堤通手永御田扇祭りをやってみて③

◆今の時代に合わせた工夫

- おもてなしは、昔はおでんを作って振る舞った。今年はキッチンカーを依頼。
- レンタルの利用。テントをレンタルして業者が設置することで、町民の労働力と時間の負担を軽減。

◆お祭りの継承

- 申送り書や協議確認事項を3町で確認するため、3年前からお祭りに携わるシステムになっている。
- 記録資料（写真を更新）を作り、町の方に配布。
- コロナの影響で、中止・縮小されていたもの、例えば踊りを復活させた。

